續拾遺和歌集

下

特別
へ4
8099
12(2)

^4
8099
12
(2)

〈2001-029〉

續拾遺和歌集卷第十一

戀部一

正治百首うたてまつりし時

皇太后宮大夫俊成

恋ひそめしかはらぬ色に成りにけり
初恋の色を

女御門院御製

ちはやぶる神のいがきに成りぬとも
忘れぬ人の名をしたのまん

建長元年百首うたてまつりし時

衣笠内大臣

たのまずとなげくなかにぞ
なほ人の

[illegible]

[illegible]神[illegible]

[illegible]

前権政左大臣

家[illegible]百首[illegible]

[illegible]初戀

[illegible]入道前関白太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言為家

[illegible]

建長二年八月十五夜[illegible]

[illegible]右兵衛督為教

[illegible]

[illegible]

洞院権政家の百首[illegible]

常盤井入道前太政大臣

[illegible]神[illegible]

[illegible]

後[illegible]

[illegible]

春宮大夫

[illegible]

建長三年九月十三夜十首[illegible]

[illegible]

万里小路右大臣

[illegible]

百首歌の中に

太上天皇

我こそは[illegible]の中に[illegible]

春宮大夫実兼

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

前大納言為家

[illegible]

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

[illegible]

前大納言為氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

土御門院小宰相

[illegible]

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

[illegible]

道助法親王家の五十首の中に紅葉

参議雅經

従三位行家

前左兵衛督教定

右大弁言房

正三位知家

右大弁言房卿

寛治元年三合十五日　恋人

前内大臣

院年四位

建長二年九月十三日三首合　恋

兵部卿隆親

入道二品親王　小助

建仁元年九十首　夢雲

前中納言定家

憲房卿中

神乃名をきそのゝ人とをしなべてかひやなかれ

奥沿百首なかてまつりに寄恋

前大納言基良

せく神のなかれ流れ乱れ

文永七年八月十五夜内裏三首歌

藤原為世卿

つゝましかるゝ人をかせをかなる

神乃名をきそのゝ人とをしなべて

今出川院近衛

せく神のなかれ流れ乱れ

春宮大夫公

つゝましかるゝ人をかせをかなる

従二位行家

せく神のなかれ流れ乱れ

中務卿宗尊親王

つゝましかるゝ人をかせをかなる

未剋面恋

人をしなべてかひやなかれ

皇太后宮大夫俊成

洞院摂政家百首奉り

正三位藤原家

弘長元年百首歌たてまつりし時

前大納言為家

高階宗成

前大納言隆房

前大納言公房

藤原則俊朝臣

九條右大臣女

侍従雅有

千五百番歌合に

前大納言忠宗

これも又ともにやせむと浪の川しかならひあらは見

前大納言為氏

無常歌の中に

桜さく世にこそはいつまで浪のうへにみゆらん

大将にはかゝる事つゝまれつゝのちゝにかはらすもかな

万里小路右大臣 公基

宣旨をかゝれ事に

みさほ山をしきるゝ夜にかゝるも露のかゝらぬは

山階入道左大臣家の十首歌に寄開恋

前大納言為家

なそかくも中々にあひ見し浪の人めもしのはれ

家の百首歌よみ侍りける時寄恋

後法性寺入道前関白太政大臣

題しらす波にきえてもいくよへぬらん

刑部卿頼輔

うき世をは心にかけていかにせむとはしのひの衣の袂

百首歌そへてまゐりける時

僧正行意

あはれいかにせむ袖にさそふ風の宿の枯野の露

ちらぬ時

皇太后宮大夫俊成

たえてしも袖やすゝむるおもかけに枯野の露

寄枯草といふ心をよませ給ける

太上天皇

よしゆくらてのよはにちさえやけのいつそ見し春の風

恋ごゝろ　典侍親子朝臣

今しはたものまもいつまでたのみつゝみちもかれなん

西行法師

みさびえの波ありの世は草衣けさも人まつ世のならひかな

千五百番歌合

後京極摂政前太政大臣

わか秋の限りはせめてわか袖にしもをかさねてまた涙かな

題しらず

後鳥羽院御製

浦ちのかぜそふゆきまつかぜにかよふもかなしき

世ひのかはの衣をめつゝそことのまくらにもみちあはむ

よみ人しらず

續拾遺和歌集巻第十二

戀歌二

題しらす　　前関白左大臣　兼

今こそは我の程ひとつよそにしてかなしかりける風ませそく

常盤井入道前太政大臣

見るめのうきさ浦よりよりしほたれてくれはよそにもなふかたの月

名所百首歌たてまつりけるに

従三位行能

定めなきにおもふ心りは志らせても磯の浦なみのよる[illegible]

恋歌の中に

按察使高定

よしつらきゆくゑをしるへやかれてもなほ[illegible]世に

下もえに[illegible]むすほゝれつゝ君やたのまむ

前摂政左大臣

こひ[illegible]の思ひにそ[illegible]逢ふ[illegible]

前大納言為氏

かはすや[illegible]

権中納言公雄

弘長百首歌たてまつりける時

権大納言忠信

[illegible]

題しらす

大蔵卿有教母

宮[illegible]

源朝長

源親行

壱岐守入道宗左衛門尉

院ノ侍四人

文永二年七月白河院七百箇年に等身の

御塔中油言雅言

[illegible]

俊頼朝臣

前右近大将頼朝

百箇寺ニ[illegible]

[illegible]

前右兵衛督教

千箇番[illegible]

後鳥羽院御制作

後白河院

題しらす　按察使高定

咲てたにちらさきものと惜む花をまたてうつろふ人のこゝろかな

藤原伊信朝臣

あすもみんけふもきてみる花のあたりまて風さそふ花そちらさき

藤原景家

行ふとて花たのむとおもふらん桜かりけふも暮ぬとはまてとなれは

平時村

ねかはくは花に心をとめてみんちるをうらみぬたかさともかな

平宣時

わかやとの花にうつるをさそふ風さそはゝ花をさそはんとてや

入道二品親王家五十首歌よみ侍ける

侍従雅有

ちる袖のあたりの花の露ならは花そ色まさるそてのうへ

将作正實伴

あふ事の中にかたみそはらのやまふきのさくら花のちるころ

千五百番歌合に

前大納言忠良

あまの花の色にちらさなみにかりに袖のなみにそ

大蔵卿有家

山さくらちりかふ浦のしらなみは花にそみえて吹風をまつ

弘長元年百首歌たてまつりける時不逢恋

常盤井入道前太政大臣

[illegible]

家に寄合作り家領

中御門家成

右衛門院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

常盤井入道太政大臣

[illegible]

[illegible]

洞院摂政家の百首歌より不遇恋

常盤井入道太政大臣

弘長三年内裏百首歌奉りし時家氏卿

前大納言為氏

[illegible]

[illegible]

賀茂重保

[illegible]

和泉式部

[illegible]

正三位知家

吉野山のかけのあとにはなをさくらはなのちるをこそ

題しらす　読人しらす

むかし人の後の世こそ中にはかなくて恋しき人をもなくさめん

文永十年七月内裏七首歌なりける時　光俊朝臣

あまつそらかすむ月はをしみなくなにゝかへん

恋乃歌　従二位那氏

たのめこしそのよもみえはかりにたゝ恋しきをみるともなれ

百首歌なりける時　式乾門院御匣

契をなさけなりし人のたのみしをたのみて世をすてそのみをしる

題しらす　平行氏

ちりはてゝ花のかけなき木のもとにたつやかすみのなさけなるらん

題隠恋といふことを　藤原為世朝臣

つれなさをいかにしのへと人に見せて恋しさそまさる山の井の水

恋歌乃中に　前参議隆親

おもひあまりいかにせましとなけきてもわか涙こそ袖にあまれ

従三位行家

おもひつゝふかき心の雲のはて恋しさまさる人のゆくらん

貞治百首歌たてまつりける時　源後平

あまつ風ゆきまよふ雲のはてにかゝる橋のまつにしられぬ

[illegible]

入道二条新中納言家五百首歌に

津守国助

[illegible]

建長三年四月十首歌[illegible]

院弁内侍

[illegible]

典侍親子朝臣

[illegible]

山階入道左大臣家の十首歌に不遇恋

前大納言為家

[illegible]

平時直

[illegible]

中務卿宗尊親王

[illegible]

平義政

[illegible]

藤原基親

[illegible]

久憲の女

平政長

[illegible]

百首ずつ時

従三位助信卿

従三位中に　中務卿宗尊親王家歌

信実朝臣

左近中将具氏

常盤井入道前太政大臣家千首歌

山階入道左大臣

文永二年九月十三首歌合不逢戀

従二位行家

従三位中に　伯従紙清

従三位中に　安嘉門院高倉

宣秋門院丹後

恋しあハれ君をもやすまじける月ハ昔の人にかハりとも
世乃ことにつらしきもの

後徳大寺左大臣

恋しさハゆふへをかきりともなしと思ひそよゆふ風荻の葉ハ
それともなくとも

續拾遺和歌集巻第十三

恋哥三

千五百番歌合に

参議雅經

かけてたにたのめぬ浪のよる〳〵は松をつま風さそふうら風

久安百首哥に

待賢門院堀河

つれなさをいつまていひていかゝせん言葉まつれとも人の心を

左近大将朝光

かたみそと人たのむ事もはりつけく

三条院女蔵人左近

思ひなり言葉の末にをく露のかゝらぬ袖へつれなきも

[illegible]

中務卿宗尊親王

[illegible]

安嘉門院四條

[illegible]

前右兵衛督教定

百首歌奉時

[illegible]

山階入道左大臣家十首歌奉行約束

前大納言為家

[illegible]

同会

院御所内侍

[illegible]

寄船恋

前権帥左大臣

[illegible]

文永五年九月十三夜白河殿歌合に源夜行約束

権大納言兼任

[illegible]

前右兵衛督教定中将に約束の歌

月恋

真昭法師

[illegible]

[illegible]

前大納言資季

[illegible]

入道二品親王家の年首祝ひ

侍従行洪

なのりそよ[illegible]

[illegible]

中務卿宗尊親王

[illegible]

[illegible]

山階入道左大臣

[illegible]

[illegible]

権律師玄覚

[illegible]

[illegible]

平教泰

[illegible]

侍従[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍従[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍賢門院堀河

[illegible]

中務卿宗尊親王家百首歌

典侍親子朝臣

[illegible]

[illegible]

前関白左大臣 [illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原為行

式子内親王

前中納言定家

高階宗成

文永五年九月十三夜白河殿合歌に恨不逢恋

行中納言兼雅

嘉応二年法住寺殿御所の合歌に来不逢恋

藤原道經

寄月恋

津守国基

近衛関白太政大臣

普光園入道前関白太政大臣

弘長元年百首歌たてまつりける時初逢恋

手枕にむすふ夜のまのなこりおほかる袖の上に露そおきける

前大納言為家

衣笠内大臣

月草の花田の帯はひとへけれとさきいかなる宮こへのみちのたかきにまよひぬるかな

なかき夜をまちてよみ人ゆくそらの月

相模

千たひゆきかへる人のならひもいかにせよとてとはれん

寄関恋といふ事を

惟宗忠景

たのめやはあふ坂こえしかひもなく関守のゆるさぬ中にすまゐせ

弘長元年百首歌たてまつりける時暁別恋

従二位行家

きぬきぬのわかれの道を夜をこめて今朝はたちにし山のはの月

洞院摂政家百首に後朝恋

前中納言定家

たのめおく別ときけはあかつきのこゑそなかなか人をうらむる

弘長三年九月十三夜十首歌合に月前恋

太上天皇

きえぬへき露をも月かそのまゝにとはぬ人をもまつよなりけり

題しらず

前摂政左大臣

待夜まてかはらぬ月の影も千代まつにこそ袖のなみたに

弘長元年百首のたてまつりし時の暁別恋

赤大納言為家

月はいかにかたぶくとてかはつかぬ暁の別れ

恋の心中に

道法法師

海人の袖に宿る月の影の袖のみさへ

典侍親子朝臣

うらもなくなほうらもとうらもなくうらもなくうらもなくうらもなく

中務宗秀親王家の百首歌に恋の心を

鷹司院帥

さしてこそ思ひ分けしかけさはまた

変別恋とてこそ

平清時

ちかひをば後世まで命をかけてつきしたがふ

後法性寺入道前関白家の百首歌に援朝臣

別つるかなさはなりなくかなしかりけるとこまるさと

皇太后宮大夫俊成

床の上にとりつけさせ給へりしかの我身を先帝の

隆信朝臣

宿百首に

二条院讃岐

ながけさいかにかりしかの床のもとにかなしかりけるとこまるさと

後鳥羽院御製

恋の心を

ちかひをばちかひをばちかひをばちかひをばちかひをばちかひをば

今日よりかへりてゆくへしらすも

権中納言定頼

ゐましわぬ袖の枕におもひ寝の夢をさへ人かよはれ

恋歌中に

中原行実

さてもわか袖をやおもひたのまれし涙と人のおもひそめけん

京極院内侍

すゑとをくたのみしことはあはれとて思ひとつきぬる身のうき

建保百首歌たてまつりし時

光明峯寺入道前摂政左大臣

うたゝねの袖にしはしはまつよひのやすらひこそのうき契

寛治元年十首歌合に逢不遇恋

後鳥羽院下野

たのめこし人のことの葉はかなくてたのまぬしもあはれなる世に

題しらす

平行氏

あま雲のたちかへりつゝさためなきよそに思へはつらき身の

行念法師

人心さもあらはあれとおもひけるたのめぬ人のわすれやはする

前摂政左大臣

とはゝ又たのみはかなきかねてより別ししたに人のつれなさ

後鳥羽院御製

うつゝにも夢にもみえぬ面影をこひつゝかたしくはにかなしき

家小百首歌よませ給ひけるに

中務宮宗尊親王

稀逢恋のこころを

[illegible]

権中納言経平

[illegible]

百首歌たてまつる時

前中納言雅言

[illegible]

平親清女

[illegible]

文永七年九月内裏三首歌 恋

藤原隆博朝臣

[illegible]

月かきくもる

和泉式部

雲井より月ぞ[illegible]

逢坂の中に

女房門院内侍

[illegible]

後鳥羽院内侍

中[illegible]

弘長元年百首歌たてまつる時 暁別恋

常盤井入道前太政大臣

百首歌たてまつりける時

入道二品親王性助

月前恋とこころを

横雲使高定

右近大将通基母

典侍親子朝臣

大納言通具

續拾遺和歌集巻第十四

慈円

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言為家

[illegible]

前内大臣 妻

[illegible]

平敦清女

[illegible]

文永二年九月十三夜寄合小後嵯
峨二位行家
九月十三夜五首歌ふかせられけるに
前大納言良教
三条内府と申すを
粉中納言具房
洞院摂政家の百首歌に遇不逢恋
藻璧門院少将

あまの釣舟はてしなきなみ路にいくよの秋をかたらひぬらん
嵯峨院
月をこそ思ひ出でけれ忘れしの袖の涙の秋の夜の
文永五年八月十六夜寄合月後嵯
太上天皇
なぐさめかねてしぬるあけぬるに袖の上に
家に千合百首歌
粉中納言長方
袖よりあまりあふぎてしぬる月をこそ
三月恋
藤原成茂
いつまでか月のうつろふ花をとて文治元年七月歌

同仏を
とひてゆるふ人をとゝ月のはてはよりのゝ月てを
後法性寺入道前関白家にて侯月詠歌を連
四三位頭家
たゝ思ふ恋をしてゆるふ人をとゝ月てを
雅経
六御門院御製
うゝ見てゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
藤原為家朝臣
年を経て恋ゆ月のかけてを秋の夜
ゆゝ恋ゆ言葉ゆ月のそこに残
道生法師
月のはてはよりのゝ月てを
後法性寺入道前関白家にて侯月詠歌を連
四三位頭家
たゝ思ふ恋をしてゆるふ人をとゝ月てを
雅経
六御門院御製
うゝ見てゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
藤原為家朝臣
年を経て恋ゆ月のかけてを秋の夜
ゆゝ恋ゆ言葉ゆ月のそこに残

典侍親子朝臣
恋ゆゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
恋ゆゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
恋ゆゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
前中納言定家
仏ゆゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
我ゆゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
かゝゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
前中納言通房
うゝ見てゝ人の仏をとけ月を独ゆ物ゆ言はてを
宮内卿

権中納言雅言

山の端にいさよひくらす此夕まくれもとおもへはあはれなるかな

恋哥の中に　源有長朝臣

ちきりてし秋のたのみも此あはれ人のこゝろそうけれともなき

人の心の日の今のまにもおもひしまゝのつらさなりけり

顕経成卿

あふひてふ名はさらにかけしとも今のかはらにたつしらなみ

夏夜恋　右衛門督資実

夏の夜はわすれてあかすおもひつゝねぬ夜の月のあはれをもみむ

建仁二年五十首哥合に夏恋

皇太后宮大夫俊成女

たつねこしや夏を秋風に夏の程をたのむ也

思ひの月ちかひの日にけれあふ今の五月まつ恋ひこそ

忘られて

白河殿の七百首哥に寄[illegible]恋

資方朝臣

かれかれにあらぬ我をまつやとはまつとけさ秋もたのむ

あらしにふかき月の今の有明の月をみむとそおもふ

後光厳院御製

さりともとおもふ心を

赤染衛門

かくてのみたのめしかとも秋の月をこゝろにまちしかな

かくてのみこそ人はしらねと五月の月に人はかくそいひける

たいしらす　周防内侍

さもこそははかりをふるあやめ草ゝそねにかけまほしけれ

五百首歌中に　前左兵衛督教定

夏草のしけみのをりさゝにもさらに中にたゝ人まちし

源家長朝臣

[illegible]

法眼慶融

身のうしと我さへ身をはすてぬともおもひもかけぬ人の心か

寄蛉と云事をゝゝこころを　丹波尚長朝臣

あまのはるもちりえゝ蛉の羽をたゝちくらしやなかにおもひさかりふる

題しらす　よみ人しらす

ことしよりかさゝきわたすちきりにはさこそ絶へたれ

寄草恋と云事を　殷富門院大輔

織女のたえぬちきりはかはらねとあまの河原のよそにたにきけ

七月七日女のもとにつかはしける　権中納言顕基

かけてこそおもひわたらめたなはたのふかきちきりをよそにのみ人

題しらす　よみ人しらす

あまの河おもひわたれといつ年にこの夜ひとよのうきせなりけれ

人のもとにつかはしける　前中納言資平

かけてこれをいと[illegible]

中務卿宗尊親王家百首歌に

光俊朝臣

[illegible]

酬入道前太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の秋まもなく三百首家歌合をこころみやすす

前内大臣

家秋月恋

あしたの秋のそらにたかうたをつき袖の月影

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右近之將監源の[illegible]

[illegible]

[illegible]

東三條入道前摂政[illegible]

十月[illegible]

前中納言[illegible]

題不知

[illegible]

曾祖父忠

[illegible]

安嘉門院高倉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保五年内裏[illegible]合小文和歌

藤議雅經

[illegible]

續拾遺和歌集卷第十五

慈円

百首うたのなかに時

春宮大夫実兼

ゆく年のむすぶ神の浪にて春のはつねのなかれ

[illegible]

[illegible]

右上天皇

[illegible]

[illegible]

九條左大臣

[illegible]

後鳥羽院大納言典侍

建保二年内大臣家百首歌に若菜

[illegible]

建仁二年慈円大夫百首合に古郷

後京極摂政前太政大臣

[illegible]

百首うたのなかに付

従大納言長雅

[illegible]

平親宗と云ふこゝを

安嘉門院四條

ゆとゝに今ひく物のけさを切る秋の名ゝ

法下寂賢

恨絶恋

今ひくとみるもの物たに下ゝ河ゝ流れてく

建長三年四月十首ゝたまりまに恋

前大納言為家

かへ世の中ひかぬ世なれ世なれたの命はゝ

平親清女妹

絶ら反

ゆゝやゝ行ゝ行ゝ行ゝ秋の夕ゝ秋の海を

従二位家隆

春ゝ下ゝ水の山ゝ行ゝ春ゝ見ゝ

藤原為家

ゝ花ゝ山ゝ行ゝ見ゝ浦ゝ月ゝ世ゝ夏ゝ山ゝ春ゝ夏ゝ

藤原為氏

秋ゝ月ゝ冬ゝ雪ゝ

藤原為世

かゝりてゝ世ゝ山ゝ行ゝ山ゝ

紫式部

秋ゝ月ゝ

藤原為定

ゝ深ゝ山ゝ

藤原為子女

ゝ行ゝ

式乾門院御匣

ゝ行ゝ

白河院七百首ゝ三月草恋

前中納言資平

道助法親王家五十首歌中に寄雷恋

雷鳴寺入道前大政大臣

文永二年九月十三夜太政大臣家合に後嵯峨院御製

我宿の秋の中なる月ゆゑ
恋ふる涙の雨ぞ降りける

入道前摂政大臣

百首歌たてまつりしに恋

権大納言長雅

寄月百首歌たてまつりし時

前参議忠定

秋ゆゑ
月ぞ
恋ふる
涙の
雨ぞ
降りける

入道前摂政太政大臣

雨中月

月ぞ
雨の
中なる
秋ゆゑ
恋ふる
涙の
雨ぞ
降りける

大納言雅忠

月ぞ
雨の
中なる
秋ゆゑ
恋ふる
涙の
雨ぞ
降りける

文永二年九月十三夜五首平合ニ絶意

前関白左大臣　一条

大方の我のみかとの命の長さは
山階入道左大臣家十首歌ニ初冬

権中納言公守

ふるさとの時雨の中に紅葉せし
野辺の不二の
かつらの山の野中の清水かれ
ぬまでとのつきぬ光を

仁和寺二品親王守覚

秋の夜の月の光の澄ぬれば
ちぬ人ぬらす

権律師俊範

とりまとめの清水の流れ絶えぬ
文永二年九月十三夜の歌合ニ後京

光俊朝臣

うたがはぬ光ぬ月の影ぬ
野ぬ
月の影

藤原伊長朝臣

月の影ぬ
月の影ぬ
月の影ぬ

後法成院大納言典侍

中務宗秀親王家百首歌

鷹司院沛

白川殿七百首ニて家河意

前大納言資季

年毎ニ人ものこそ引ぬ[illegible]
[illegible]

式乾門院御匣

後たのもしと思ひ[illegible]
[illegible]

大炊御門内大臣

[illegible]
[illegible]

後嵯峨院民部卿典侍

[illegible]
[illegible]

新陽明門院兵衛佐

[illegible]
[illegible]

山階入道左大臣家十首ニ小雪恋

権中納言公雄

[illegible]
[illegible]

沒三位行俊

[illegible]
[illegible]

寄境恨恋

沒三位光成

[illegible]
[illegible]

恋の心を

女御門院御歌

[illegible]
[illegible]

弘長元年百首ニたてまつりける時逢不遇恋

[illegible]神の[illegible]

衣笠内大臣

[illegible]不忘

後白河院御製

[illegible]

百首歌奉時

前中納言資宣

[illegible]

前関白左大臣 鷹司

[illegible]

源義兼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前関白左大臣 系

[illegible]

津守国基

[illegible]

藤原為忠朝臣

[illegible]

源滝院清蔭

[illegible]

弘長元年百首歌よみてまつりける時遇恋

常盤井入道前太政大臣

[illegible]

家後十首歌合に恋部

前大納言資季

[illegible]

恋の心を

中原行範

[illegible]

中務の宗尊親王家の歌合に

光俊朝臣

[illegible]

前関白太政大臣 系

[illegible]

賀茂氏久

被仰遠の色を

参議定俊

なほ成り行かるべきなり

前右兵衛督有教

遠江中に

[illegible]

従三位頼氏

[illegible]

正三位重氏

[illegible]

恨遠の色を

[illegible]

今出河院を清

後の世にきこえてうれしき

正三位知家

[illegible]

[illegible]

續拾遺和歌集卷第十六

雜哥上

建保百首哥たてまつりける時

西園寺入道前太政大臣

[illegible]

正三位知家

[illegible]

藤原道經

[illegible]

百首哥たてまつりける時

光俊朝臣入道前右大臣

[illegible]

白河院七百首哥召侍

後鳥羽院御製

[illegible]

中務宮雅平親王家百首哥に

典侍親子朝臣

[illegible]

山階入道左大臣家十首哥に若松

前大納言家

[illegible]

法下良覚

[illegible]

前大納言秀家

[illegible]

右衛門督忠長

[illegible]

前参議忠定

[illegible]

右大臣 系

[illegible]

弘長元年百首寄之

常盤井入道前太政大臣

[illegible]

[illegible]

橋

[illegible]

[illegible]

前左兵衛督教定

[illegible]

賀茂社[illegible]

[illegible]

前参議門院大貳

[illegible]

[illegible]

藤原門院女房

道京朝臣家の女房の中宵小述懐哥

佐橋形部

藤原泰朝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原秀衡卿
前中納言資平
前内大臣 基
従二位 経
源義氏卿
従二位 雲客
従二位 頼朝
従二位 義忠
前大僧正覚忠
前関白左大臣 兼
大僧正慈円
大僧正朝雲

[illegible]

殘人[illegible]

[illegible]

[illegible]

建仁元年合戦山家義氏

惟明親王

信濃守人々をせめ給ふ宋朝の
勅宣に依て

侍従行清

まつらふ人々に加はる

右兵衛督基氏

こゝを出て山科の若王子に
参詣して住吉に行給ふ

前大僧正慈円

世の民と成給ふ

侍従三位光成

行幸まを
出て

前大僧正道玄

我も行幸をたのむ
新日吉社の社頭
樹をきて
白馬の事
白馬の
参議雅有
のこりて
侍従雅有

高倉の本殿御所の若王子に
前内大臣
いとかしこき
前関白左大臣

慈助法親王

山階入道左大臣家の十首ニ秋述懐と題を
よみてけるうけ

前内大臣

ゆふしでの秋の夕べの哀れかな
高野山に侍りける時宮内卿成子載集ニ侍り
ぬてこの歌を書てつかはすとて

和歌ものあはれとものうきやうにこそ
思ひ入ぬれ

道信朝臣

世にふるに入ぬる身の哀れをば
前大納言公任かきそへ侍りける
歌ども
なりてはかりかたりつたへ
見すり侍りしうちにとて

道信朝臣

ものをおもふ心を形見にとどめ置て
崇徳院かきそへたまへりける
歌ども
ものをおもふ心の中にかくれたる
人をたれかは見てしるらん

皇太后宮大夫俊成

歌の道をたしなみ侍りしかの
ものの
ものをおもふ心の中にかくれたる
人をたれかは見てしるらん

崇徳院御製

西行法師の歌を合て判の詞を書（かきん）付
へきよし申侍るをかきてつけたてまつる

前中納言定家

山ちかくすみそめしかは花をもとめてこえわたる
佐二位家隆千載集かせ侍りけるとき
詠人しらすと書つけ侍りき

前法師

ふるさとの花の梢はすでにちりぬ
佐二位家隆

ふるの雪ふりぬるかたはのこりけり
建長元年百首歌たてまつりし時述懐

前大納言為家

白雲の居る峯の高さを分入て道
とをしらぬ山ふかくへだたりにけり
そもそもとりつたへたる

道法法師

絶はてぬ代々の跡をたづねても和歌の浦
中将おくる年ふるかけ侍りし人侍りし

中納言教良

ひとすじに頼みをかけし岩戸かな
建長五年七月三首歌述懐

[illegible]

前右馬頭藤原為教

洞院権大納言百首歌とて[illegible]

藤原隆祐朝臣

[illegible]

兼元法橋家[illegible]

前中納言定家

[illegible]

藤原為氏朝臣

[illegible]

参議宣旨[illegible]

[illegible]

殿富門院大輔

検非違使[illegible]

藤原長京

[illegible]

源義業

建長二年勧賞[illegible]

丹後守長教朝臣

[illegible]

[illegible]

百首うたをよませて付

藤原為氏卿

つゝみかねたる[illegible]

夜述懐とて百首仏を

前大納言良教

[illegible]

弘長元年百首歌をよませて付暁を

前大納言公氏

[illegible]

[illegible]

同院御百首歌と述懐

前中納言定家

[illegible]

弘長元年百首うたより雪を付て仏を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

續拾遺和歌集巻第十七

雜歌中

[illegible]　　前中納言定家

[illegible]　　左近中將公衡

[illegible]　　後京極摂政前太政大臣

[illegible]　　前大納言為家

[illegible]　　平泰時朝臣

[illegible]　　式部卿院宮

[illegible]　　赤染衛門

[illegible]　　藤原公世卿

[illegible]　　平親清女

[illegible]　　荘子曰其思非大思之人也

[illegible]　　権中納言經平

[illegible]　　式部卿院宮

[illegible]　　赤染衛門

[illegible]　　藤原公世卿

[illegible]　　平親清女

[illegible]
百首哥たてまつる時
入道二品親王性助
[illegible]
平宣時
[illegible]
雄宗忠宗
[illegible]
平時遠
[illegible]
藤原時俊卿
[illegible]
[illegible]
侍従俊雅
[illegible]
二位家隆
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
侍従俊清
[illegible]
前内大臣 基

世々うき人にあはつるき大ふ武勇を不忘之人々世の
ふしを人々記るむすぶ世に志ある勇を感り
前内大臣 家
右兵衛督基氏
勇のうつを移ひたるさし程ふれなりや勇
水隙前移改右大臣 世良
何事も世乃むとひと移つて人つつもわすれ宗
之の世もむとひるすき勇 参議并入道前左改大臣
ありそと海こ乃のり事と わすれや之歌
衣笠内大臣
後法性寺入道前内白家百首歌
俊成卿
後鳥羽院御
おのひとり事たとくこ三ふ
詠ら原
前内大臣 裏
たゝ小事也移ひ千そう勇
俊三位忠義
何事も世にまりつる命とそ
式乾門院御匣
かりの命のひ世乃
惟宗行經
たゝ人つるとつまひ欲

法下教範

心願法師

源通親

夜更時京

権大僧都家雅

法下公親

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信実朝臣

[illegible]

前関白左大臣 [illegible]

[illegible]

後鳥羽院御製

光俊述懐

[illegible]

憲士寺左大臣 [illegible]

源仲業

[illegible]

平時廣

[illegible]

基俊

[illegible]

正三位知家

[illegible]

伯耆守清

[illegible]

道因法師

なりたる袖をかたしき年ふる身は春の夢にぞ
前権僧正兼澄
恋しさのつもりてもとのうれさをはらはばや
藤原秀成
かなしさは世にはかりなる身をそ年ふるうらみを老の
述懐の中に
静仁法親王
うらをもとはしらぬ袖にそ春の夢
普光園入道前内大臣
はかなさは世にやうとはれぬ袖にかはる
雪の夢はかりなる世をそ春の
中務宮家親王家歌合
わすれはてぬ人の心をはかりにて
権少僧都隆舜
なけくまに月はすむらん
花京長恩
ふるさとの人はいとはぬ世のうさ
大江頼重
はかなさはあとはかりなる
源義氏朝臣
百首歌の人々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信実朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

従三位忠良

[illegible]

守覚法親王家五十首歌

三条入道左大臣

[illegible]

入道

續拾遺和歌集巻第十八

雜躰下

式乾門院御匣

懐奮乃仏を

[illegible]

従二位家隆

[illegible]

雅成親王

[illegible]

中務宗尊親王

[illegible]

信実朝臣

[illegible]

[illegible]

源義氏卿

[illegible]

法印源惠

[illegible]

平政村卿

[illegible]

藤原為成

[illegible]

平義政

[illegible]

[illegible]

前大納言為家

[illegible]

前大納言公任平

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信実朝臣

[illegible]

素暹法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

澄覺法親王

僧正覺忠

源親長

従二位藤氏

黄鏡頌之事とひき侍りし事ありし

藤原云世朝臣

[illegible]

侍従紙法

前大納言力彦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文集逝者不重回春者雖人間[illegible]

前大僧正慈能

長恨歌絵を　前大納言光頼

かすみこめてはるゝとはなしに

ながらの橋の

今はむかしとなりぬれど

法成寺入道前関白かくれ給ひて

はるかに年をへたりしかど

はるかに雲ゐの月をこそ

法融院内大臣

法成寺入道前関白かくれ給ひて

はるかに年をへたりしかど

はるかに雲ゐの月をこそ

前大納言長家

信実朝臣

うき草のうへのしらつゆ

藤原門院女房

年くの春の月をこそ

女房

ながめしかとも

梅花

春とて

殖門院かくれ給ひて

人けの女車

殖門院

桂中納言俊忠

[illegible]
久保左大臣為[illegible]
普光園入道前関白左大臣
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

近衛家白左大臣

[illegible]

[illegible]

白川右宮大夫俊成

[illegible]

法中定家

[illegible]

殘人不知

[illegible]

信西入道

[illegible]

[illegible]

權中納言俊忠

[illegible]

權中納言師時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右衛門番忠基

[illegible]

又基隆為[illegible]

藤原基隆

[illegible]

良心法師

[illegible]

信実卿

前大納言忠良

[illegible]

前大納言長雅

[illegible]

藤原門院女房

三條入道左大臣

権大納言実国

久我内大臣

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

権僧正永縁

法印定豪

後鳥羽院

[illegible]

藤原上人

[illegible]

義稱門院[illegible]

[illegible]

清浦[illegible]

今[illegible]

皇太后宮大夫信成

[illegible]

十[illegible]

又光仲[illegible]

[illegible]

[illegible]

八条院門号に蓮花院と申す所に
こもりゐまゐらせて
女房の中にて
[illegible]

前中納言定家

[illegible]
[illegible]
[illegible]

前大納言基良

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

法印慈恵

[illegible]
又は中納言定家卿の家にまゐりて
[illegible]

法印覚源

[illegible]
又は[illegible]

平親清女妹

[illegible]
仁助法親王三井寺にこもりゐて
[illegible]

清守國助

信生法師

うの山乃木ゝ高とかきつけて行雁の方
まゝにまれに都てひとりのゝ行てかゝる
たゝにかきて人乃ゝ

蓮生法師

うの山乃山そ高みとて孫のゝ
あゝまゝに行ゝ孫すゝ
行雁海ゝ小舟

寂蓮法師

ゝ
都きて七年を経ぬ
障屏為秀の歌
なけてゝ人乃ゝ

和泉式部

かゝりて寺に侍参
行ゝ海乃ゝ
行ゝ人乃ゝ
ゝ乃ゝ海乃面

續拾遺和歌集卷第十九

釋教歌

華嚴經の心をよみ侍りける

後鳥羽院御製

[illegible]

法花經序品未嘗眠の心を

選子内親王

[illegible]

十如是の心をよみ侍りける中に如是性を

後宗教法師

[illegible]

本末究竟等

末乃露と消ぬるとしるとしるとし

[illegible]
我不愛身命　權大僧都　親雅
きてやとらはやうまいりてあ[illegible]法の道を[illegible]
壽量品　法眼源兼
せくあつたあちこのあつ[illegible]寺[illegible]
[illegible]　西行法師
我實成佛以來久遠
未[illegible]　思順上人
必定展傳教

[illegible]
普門品　前大僧正慈鎮
世[illegible]　大納言二位
寶積經言悔[illegible]罪我終加汝自作自業之事　光俊卿
一枝の我やの[illegible]
二月のあ[illegible]
梅の[illegible]　蓮生法師
法の道[illegible]

雙林入滅　　善空上人

[illegible]

前大僧正慈鎮

[illegible]

舍利をわけ給へりとぞ

[illegible]

赤染衛門

[illegible]

舍利講の次

後京極摂政前太政大臣

吹入とぞ[illegible]

[illegible]

金剛般若經不應取法不應取非法乃至

権僧正実伊

[illegible]

一切賢聖皆以無為而有差別

法華云善

應無所住而生其心

光俊朝臣

[illegible]

三論三德相續假乃至

[illegible]

[illegible]

檀波羅蜜を

參議雅經

[illegible]

心月倫乃仏を見る心海上人[illegible]

[illegible]

[illegible]

慶長十八年正月十日法華山寺にて[illegible]
[illegible]

前内大臣 裏

[illegible]佛のたふとき事[illegible]
[illegible]の[illegible]
法一[illegible]現[illegible]量院僧祇[illegible]

法下 良守

[illegible]
法男唯忠

[illegible]
宣即[illegible]

前権僧正宗性

[illegible]

前大僧正道[illegible]

二乗成仏を
[illegible]
[illegible]元年百首歌[illegible]

法下 定国

[illegible]

前内大臣

[illegible]
観[illegible]量寿[illegible]水想観

後洛院[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

立世章提識後化文同放照梅取光明の名を
秀房上人
九月廿五日光明寺にて行なわれ
極楽上人
多自然すなわち法を尊しまたまたの名を
法性法身の名を頂戴す
信生法師
ちなみに我法師の法を乗みたまえ塩の法師まさせて
日本往生傳を見てしたがう
法眼後世
法師の名をたまわりて行きて
月を見て
廿信教源信
ちまたの人の月を見れば西へゆくを
安養即寂光の名を
法下定国
西へのみすむとれば彼の国にあるなり
法六道音定題の名を
蓮生法師
むかしの人のいまだ世にあるを
十男の人の人作り
法眼源兼

[illegible]

高年上人[illegible]

行[illegible]法師

[illegible]

輝教の[illegible]

[illegible]

藤原則俊[illegible]

[illegible]

天台座主[illegible]豪

[illegible]

後滝院法製

[illegible]

[illegible]

前大僧正隆弁

後白河院[illegible]

[illegible]

祝詞光仲　仏頂尾の仲とり

[illegible]

法度第五

[illegible]

一流の事を書きさだめて

前右衛門正成

[illegible]

[illegible]

法度五箇

[illegible]

十戒之内中に不倫盗戒

前大納言為家

[illegible]

不邪婬戒

[illegible]

信実朝臣

[illegible]

續拾遺和歌集巻第二十

神祇哥

千五百番哥合に

後鳥羽院御製

[illegible]

大蔵卿有家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

権中納言長方

[illegible]

後鳥羽院御製

おもこ[illegible]

正三位知家

[illegible]

[illegible]

太上天皇

[illegible]

寛治元年十月廿日の会に[illegible]

入道内大臣

[illegible]

寛治三年四月京極殿道前関白後二條実白内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神垣は[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘安元年十月廿三日於[illegible]殿
参[illegible]
内大臣　家基公
時[illegible]
春日若宮御[illegible]
中将　裕成
若宮[illegible]
神祇官中
山階入道左大臣
[illegible]
大原野[illegible]
内侍
本拍[illegible]

神頭[illegible]
後德大寺左大臣
[illegible]
家百首[illegible]中に神祇
後法性寺入道前内大臣
[illegible]
西行法師
[illegible]
弘長三年四裏[illegible]
前大納言良教

信吉の子孫と称する人々の中に神代をうけて[illegible]
四位の数を相授けつつ大臣位にたてまつる者
女房にかたらひ[illegible]并に今の大政大臣を[illegible]
そたりしかども[illegible]

津守国平

信吉の相伝の[illegible]
上東門院信吉の社[illegible]
[illegible]

相大納言長家

信吉の孫小[illegible]
日吉社より四華[illegible]

後鳥羽院清撰

道[illegible]と四代を祈[illegible]
前大僧正道玄[illegible]
平[illegible]

山階入道左大臣

[illegible]
[illegible]

天台座主公意歌

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

澄覚法親王

秋部成茂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神祇の心をよませ給ふ

太上天皇

海とはるかにくまもなくやちよの神代をかけてなれるかな

前右大臣

国風に民ゆたかなる神のゆゑ

右兵衛督基氏

豊葦原の千ほの代をかけてなれる君が御

後鳥羽院御製

神ながらまもるの花かけられし神代の国のうつしなりけり

建長元年百首歌たてまつりし時

前大納言家

ちはやぶる神の心に舞ひ神代をしたふ玉鉾の道

熊野にまうでし時のうたよみ給ひし

花山院御製

宮川上流の神とあらはれ給ひ

ちはやぶる